

11) 糀谷・羽田地区

	分析項目	分析結果のポイント
消費者の 現状分析	住民に関する統計 データ分析	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都と比較して、若年層（特に20～24歳）、及び高齢者層（65～74歳）の人口の割合が高い。 ・単身者の世帯割合が高い。 ・中卒・高卒の割合が高く大卒・大学院卒の割合が低い。 ・外国人の割合は東京都と比較して高い。 ・持ち家比率が高く、居住年数20年以上の世帯比率が高い。
	消費者として感じて いる不足業種	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の4分の1は「あったらよいと思う店はない」と回答しており、現状への満足度は高めである ・不足業種として割合が高いのは「精肉店」「鮮魚店」「菓子・パン店」「惣菜店」である。
	区内外の商業地の 利用頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・「大田区内で、大森駅・蒲田駅周辺以外の近隣」「蒲田駅周辺」の利用頻度が最も高く、6割の人々が月に1回以上の頻度で利用している。 ・次いで、「東京都心」「川崎駅周辺」と続いている。
	近隣の商店街に 対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「自宅や職場に近い」と評価する人が約9割にのぼっている。 ・また、「品質・鮮度がよい」「買物に時間がかからない」「馴染みの店がある」という点で評価されている。 ・一方で「ベンチなど休憩する場所がない」「駐車場設備が充実していない」「アーケードが整備されていない」という点で評価されていない。
	あなたにとっての商 店街	<ul style="list-style-type: none"> ・「買物をする場所」と全体の8割が回答、次いで「飲食をする場所」が4分の1となっている。 ・他の地区に比べて、「各種サービスを利用する場所」「地域の治安・防犯のための拠点」という回答が相対的に少ない。
	大田区で紹介した い観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ・区内で推薦したい観光資源としては、「羽田空港」「大田市場」が高い割合となり、いずれも区内平均よりは回答率が高い。その他、区内平均より回答率が高い観光資源として、「多摩川沿いの水辺」「おたおオープンファクトリー」があげられている。
供給者の 現状分析	業況感	<ul style="list-style-type: none"> ・「やや上昇している」及び、「やや下降している」の割合が、区内平均から見て、相対的に高い割合となっている。
	供給者として感じて いる不足業種	<ul style="list-style-type: none"> ・不足業種として割合が高いのは「鮮魚店」「精肉店」「惣菜店」「喫茶店・カフェ」「衣料品店」である。 ・消費者側ではニーズの高かった「食品系スーパー」「レストラン」が、供給者側の不足業種として割合は低めであり、消費者とのギャップが見られる。
	良い影響を与える 店舗等	<ul style="list-style-type: none"> ・「良い影響を与える店舗がある」と回答した割合は区内平均よりも低い。 ・「良い影響を与える店舗等」としては、マルエツ、ベンガベンガ等があがっている。
	脅威を与える 店舗等	<ul style="list-style-type: none"> ・「脅威を与える店舗がある」と回答した割合は区内平均よりも高い。 ・「脅威を与える店舗等」としては、ユニクロ・しまむらなどのチェーン系衣料品店、コーナンやダイソーを挙げる割合が高い。
	商店街活動の 活発度	<ul style="list-style-type: none"> ・「かなり活発」「活発」と回答した商店街の割合は、区内平均よりも若干低い。 ・一方で「あまり活発ではない」と回答した商店街の割合も区内平均よりも若干高めとなっている。
	まちづくりへの	<ul style="list-style-type: none"> ・「どちらとも言えない」「あまり関心がない」「全く関心がない」の

	関心	割合が区内平均よりも高い。
	コミュニティビジネスへのニーズ	・区内平均と比べ、「まちづくり・地域活性化の支援」「地域情報の発信」ニーズが相対的に低く、「高齢者支援」のニーズが、相対的に高い。
	店舗経営上の悩み	・区内平均と比べ、「資金繰りに苦労している」「事業連携・提携をするための他の事業者との交流の機会がない」という悩みの割合が相対的に高い。
	後継者の有無と今後の事業継続	・区内平均に比べて「事業規模の拡大を予定」と回答した割合が低く、「事業規模の縮小を予定」と回答した割合が高い。 ・また後継者がいる店舗は3割未満と区内平均に比べて低く、6割は自分の代で店舗を閉める意向である。 ・自分の代で店舗を閉める店のうち、「店舗を人に貸す」の回答率は12%と区内平均より低い。「店舗の売却・賃借もしない」の回答率は1%と区内平均よりも低い。
	地域としての特徴・強み	・地域の特徴・強みとして「文化・歴史（祭り、神輿、神楽、踊り、太鼓等）」「名所・旧跡（神社仏閣、街道、発祥の地、由緒あるもの等）」「地域のイベント（季節毎の祭り、朝市・夜市・物産市、フリーマーケット）」を挙げる割合が高い。ただし、いずれも区内平均程度にとどまっている。

⑩ 糀谷・羽田地区の対象の町丁目



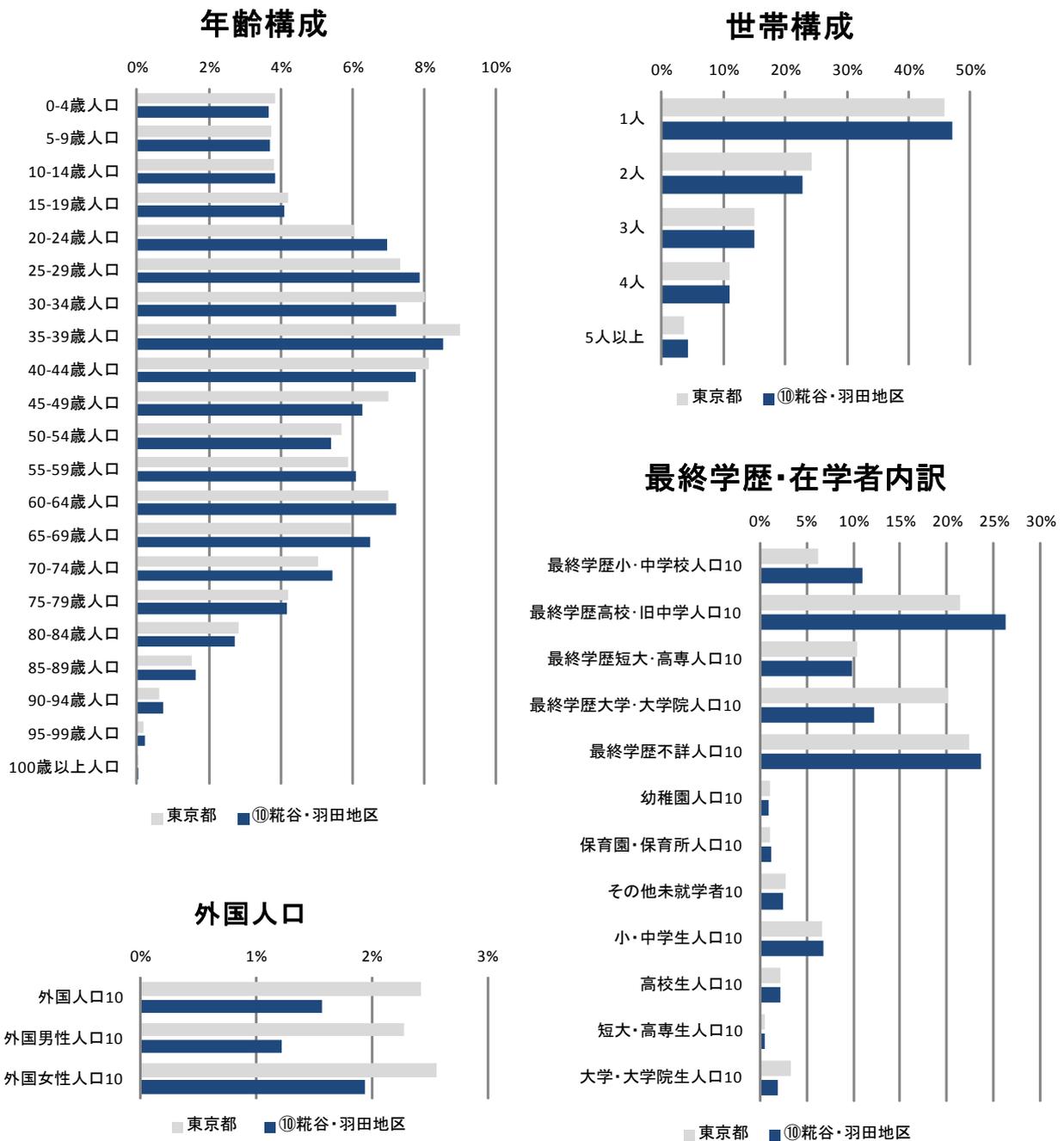
- ・北糀谷 1丁目～2丁目
- ・西糀谷 1丁目～4丁目
- ・東糀谷 1丁目～6丁目
- ・羽田旭町
- ・羽田 1丁目～6丁目
- ・本羽田 1丁目～3丁目
- ・萩中 1丁目～3丁目

1)消費者の現状分析

■住民に関する統計データ分析（平成22年 国勢調査）

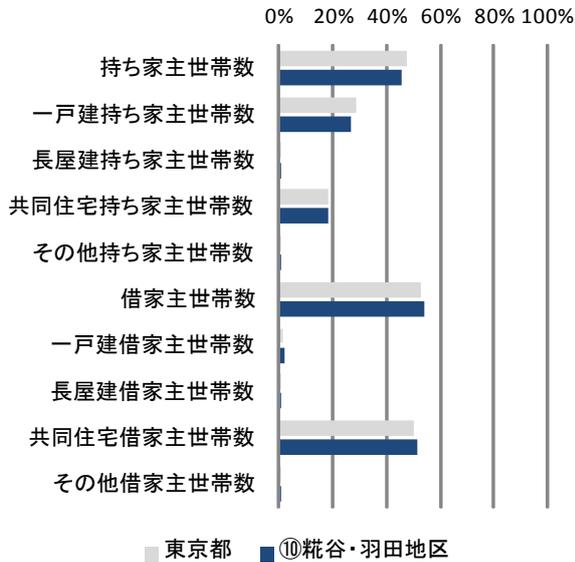
- ・東京都と比較して、若年層（特に20～24歳）、及び高齢者層（65～74歳）の人口の割合が高い。
- ・単身者の世帯割合が高い。
- ・中卒・高卒の割合が高く大卒・大学院卒の割合が低い。
- ・外国人の割合は東京都と比較して高い。
- ・持ち家比率が高く、居住年数20年以上の世帯比率が高い。

■ 糞谷・羽田地区の住民に関する統計データ（1）

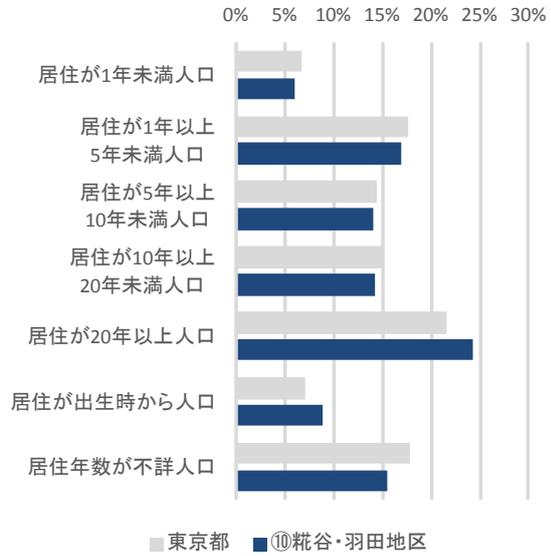


梶谷・羽田地区の住民に関する統計データ（2）

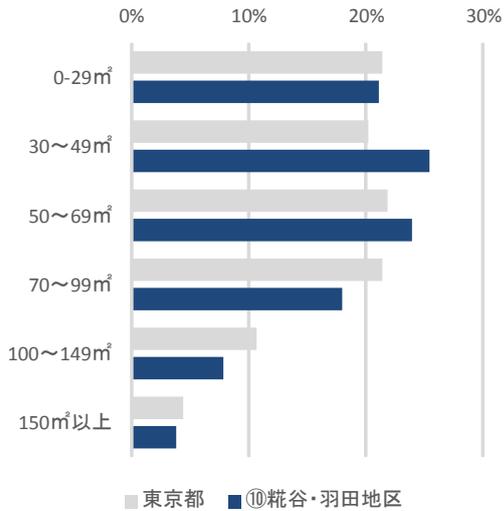
住宅の所有形態



居住年数



住宅面積



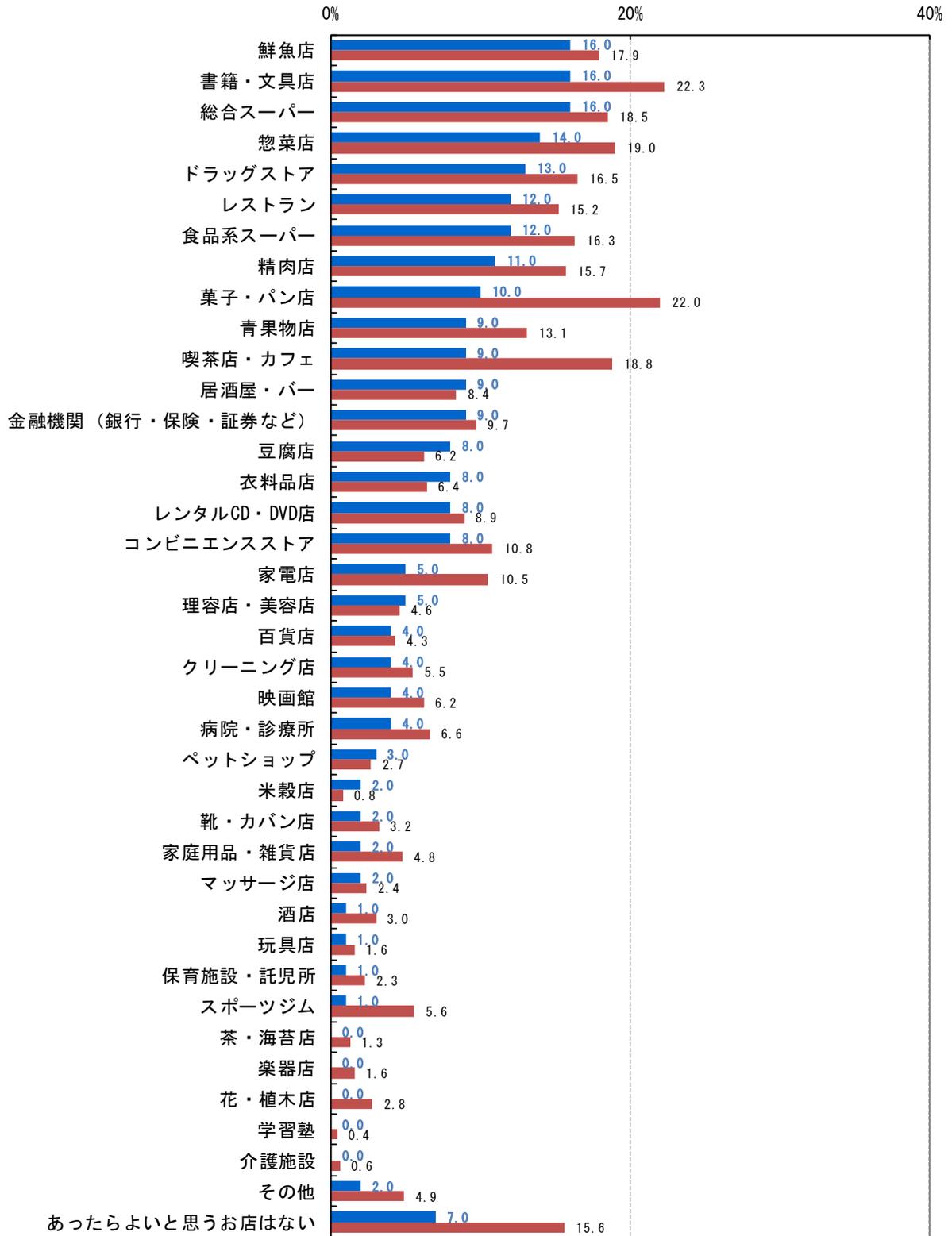
■ 商圈の基礎指標 ⑩梶谷・羽田地区

人口総数10	74,012
世帯数10	35,921
昼間人口総数10S	63,560
昼夜人口比率	86%
全産業事業所数10S	3,698
小売業事業所数10S	474
飲食店事業所数10S	317

■消費者として感じている不足業種（区民 Web アンケート調査 問 7-2 の地区別集計）

- ・「あったらよいと思う店はない」の回答率 7.0%が、区内平均 15.6%と比較して小さく、不足業種に対する出店ニーズが高い。
- ・不足業種として割合が高いのは「鮮魚店」「書籍・文具店」「総合スーパー」「惣菜店」である。

あなたのお住まいの近隣の商店街にあったらよいと思うお店

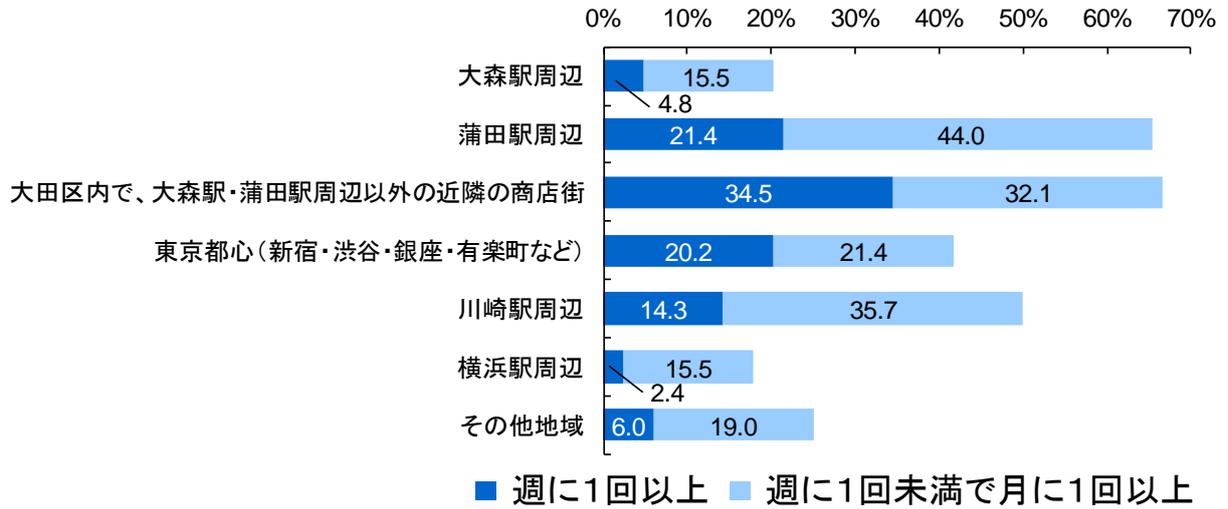


■⑩糀谷・羽田地区 (N=84) ■区内平均 (N=1062)

■区内外の商業地の利用頻度（区民 Web アンケート調査 問5の地区別集計）

- ・「大田区内で、大森駅・蒲田駅周辺以外の近隣」「蒲田駅周辺」の利用頻度が最も高く、6割の人々が月に1回以上の頻度で利用している。
- ・次いで、「東京都心」「川崎駅周辺」と続いている。

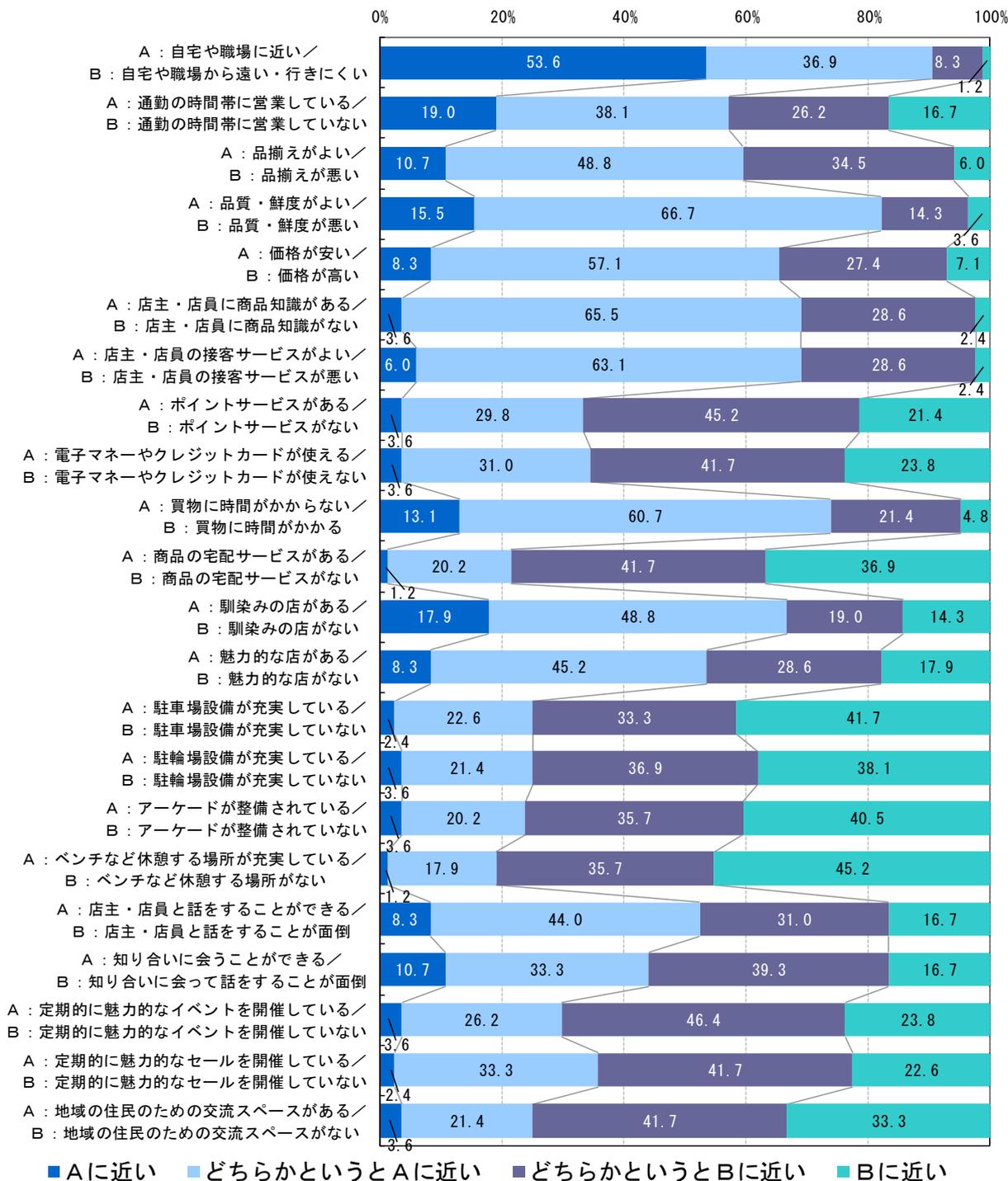
⑩ 糀谷・羽田地区



■近隣の商店街に対する評価（区民 Web アンケート調査 問7 の地区別集計）

- ・「自宅や職場に近い」と評価する人が約9割にのぼっている。
- ・また、「品質・鮮度がよい」「買物に時間がかからない」「馴染みの店がある」という点で評価されている。
- ・一方で「ベンチなど休憩する場所がない」「駐車場設備が充実していない」「アーケードが整備されていない」という点で評価されていない。

大田区内であなたがよく利用する、またはあなたのお住まいの近隣の商店街について、
あなたのお考えに近い方をお知らせください（⑩糀谷・羽田地区）

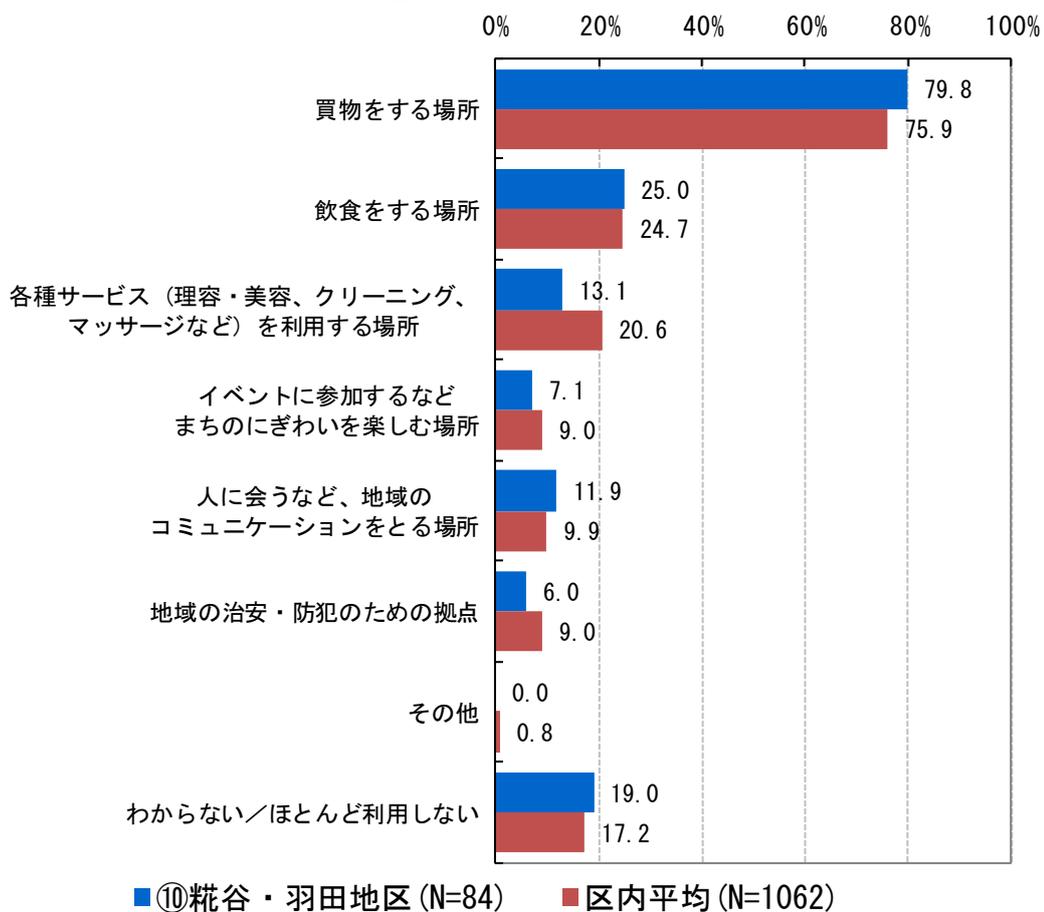


■あなたにとっての商店街（区民 Web アンケート調査 問 8 の地区別集計）

- ・「買物をする場所」と全体の 8 割が回答、次いで「飲食をする場所」が 4 分の 1 となっている。
- ・他の地区に比べて、「各種サービスを利用する場所」「地域の治安・防犯のための拠点」という回答が相対的に少ない。

あなたにとって、商店街はどのような場所か？

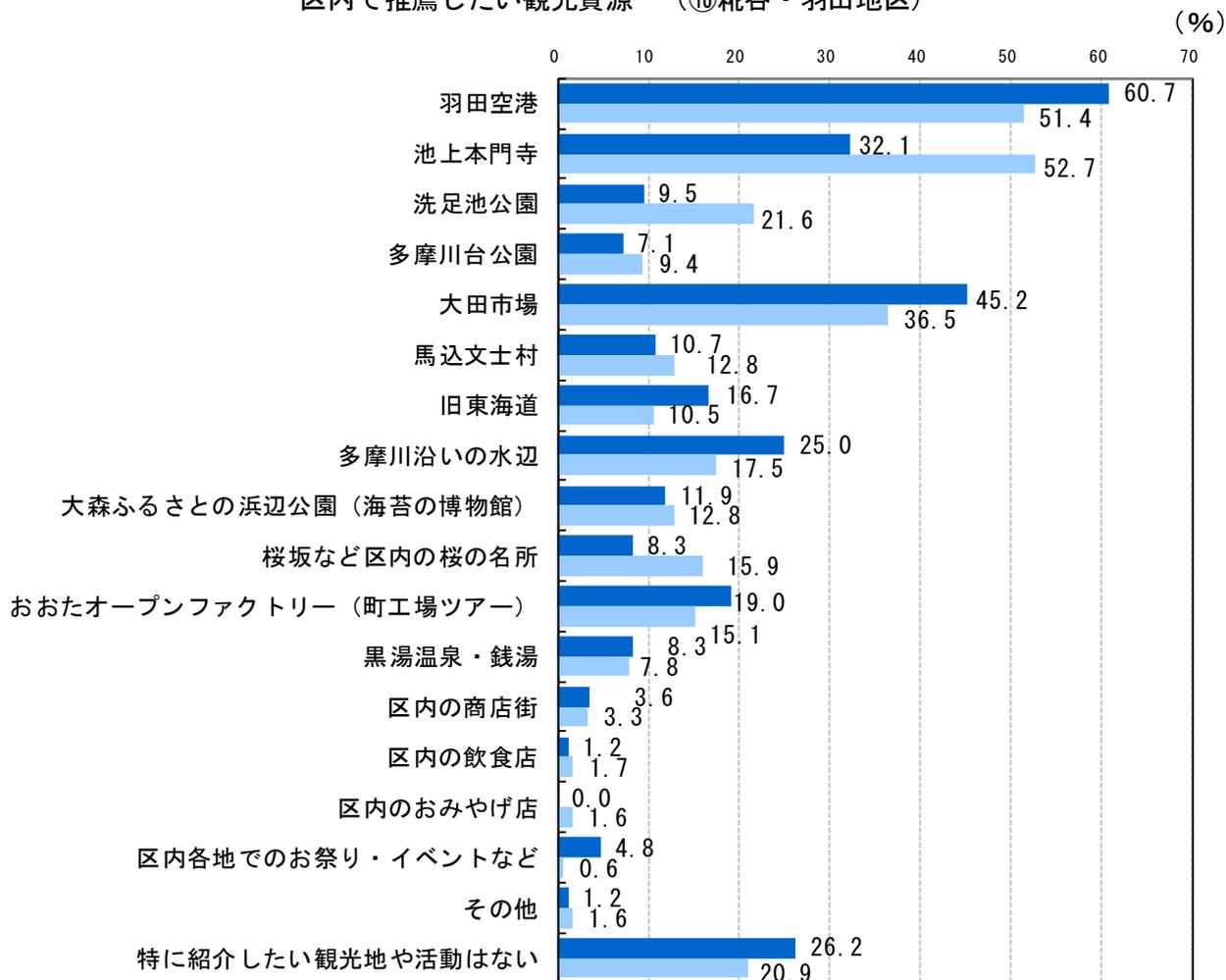
（⑩糀谷・羽田地区）



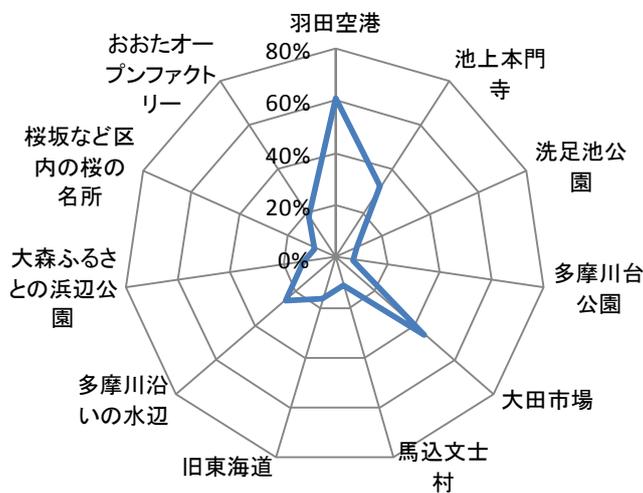
■区内で推薦したい観光資源（区民 Web アンケート調査 問10の地区別集計）

・区内で推薦したい観光資源としては、「羽田空港」「大田市場」が高い割合となり、いずれも区内平均よりは回答率が高い。その他、区内平均より回答率が高い観光資源として、「多摩川沿いの水辺」「おおたオープンファクトリー」があげられている。

区内で推薦したい観光資源（⑩糀谷・羽田地区）



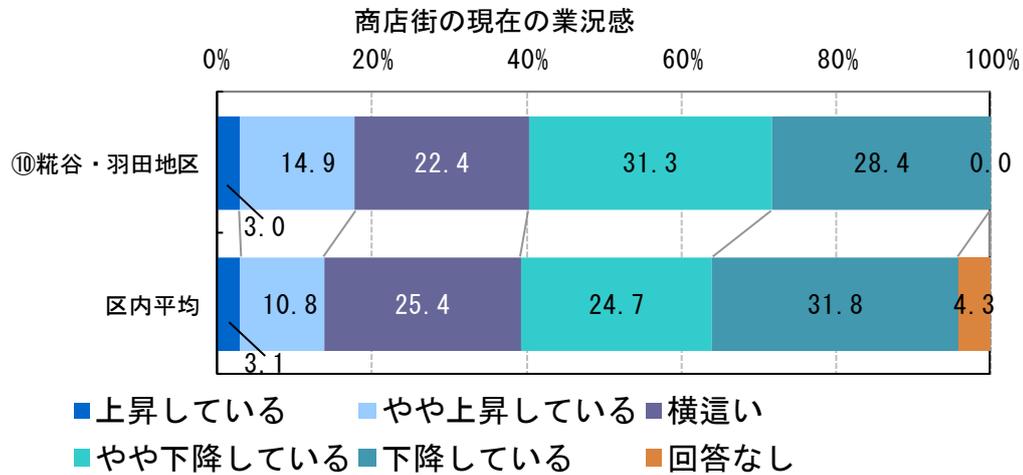
■ ⑩糀谷・羽田地区 (N=84) ■ 区内平均 (N=1062)



2)供給者の現状分析

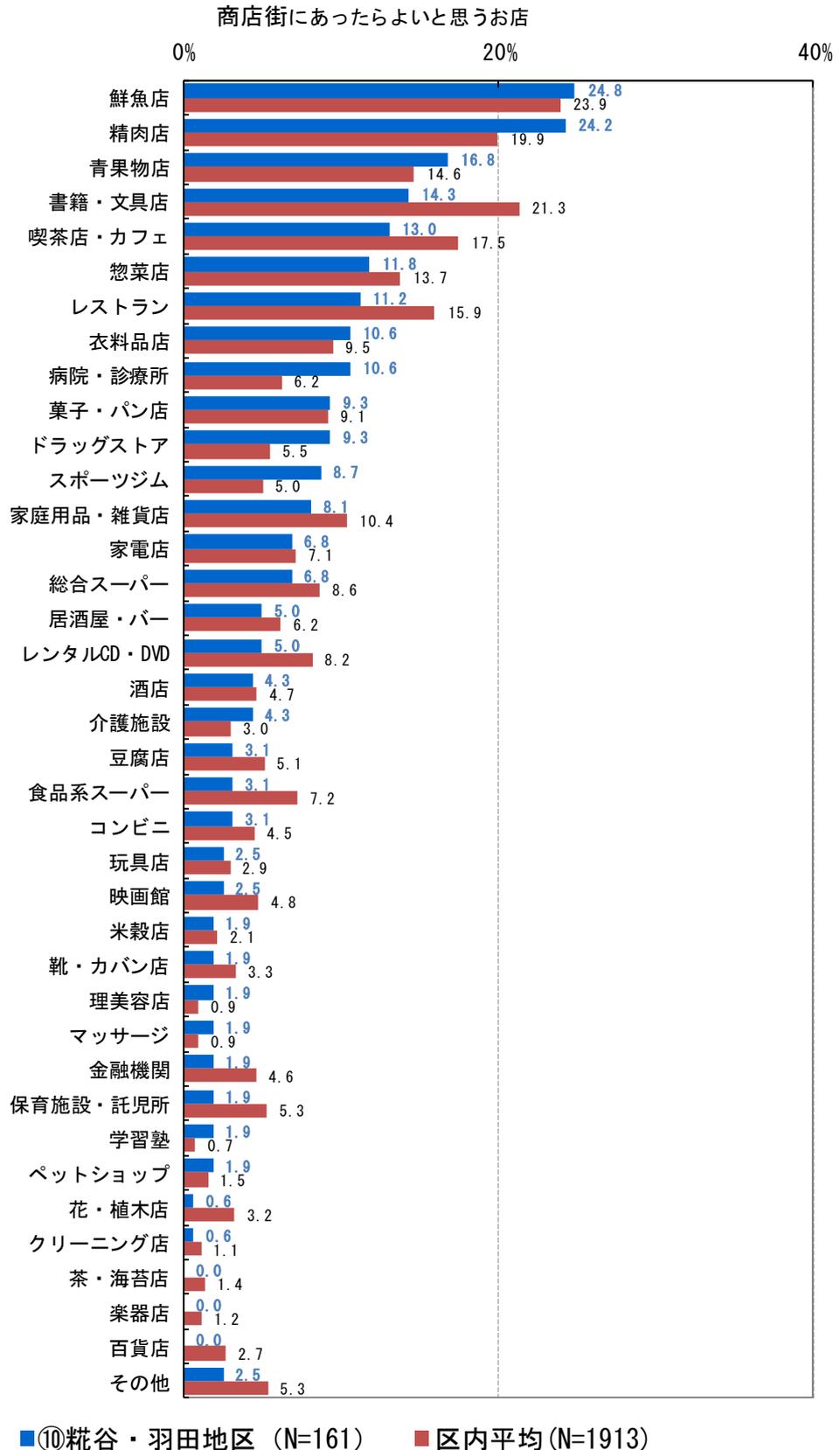
■業況感（個店調査アンケート 問3の地域別集計）

・「やや上昇している」及び、「やや下降している」の割合が、区内平均から見て、相対的に高い割合となっている。



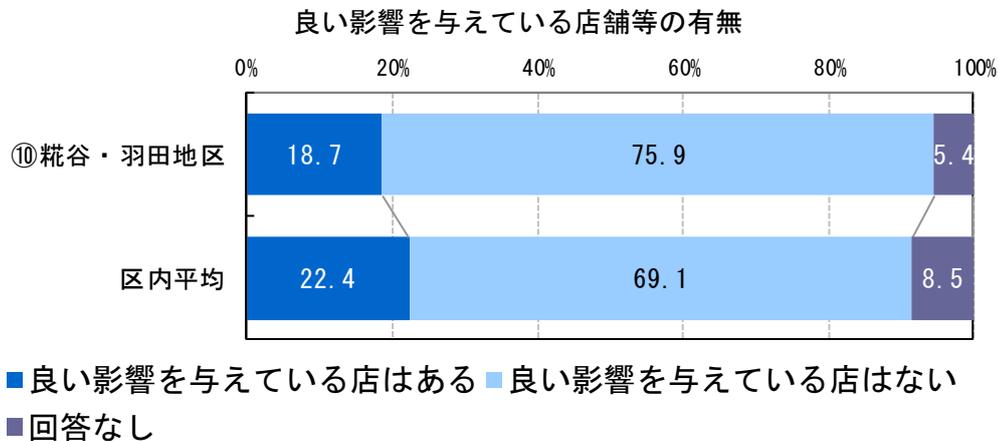
■供給者として感じている不足業種（個店調査アンケート 問6の地域別集計）

- ・不足業種として割合が高いのは「鮮魚店」「精肉店」「惣菜店」「喫茶店・カフェ」「衣料品店」である。
- ・消費者側ではニーズの高かった「食品系スーパー」「レストラン」が、供給者側の不足業種として割合は低めであり、消費者とのギャップが見られる。



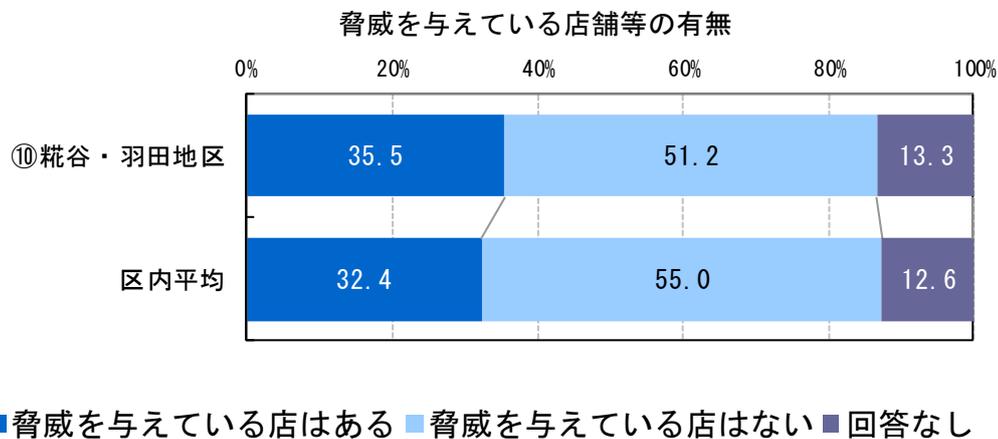
■ 良い影響を与える店舗の有無（個店調査アンケート 問4の地域別集計）

- ・「良い影響を与える店舗がある」と回答した割合は区内平均よりも低い。
- ・「良い影響を与える店舗等」としては、マルエツ、ベンガベンガ等があがっている。



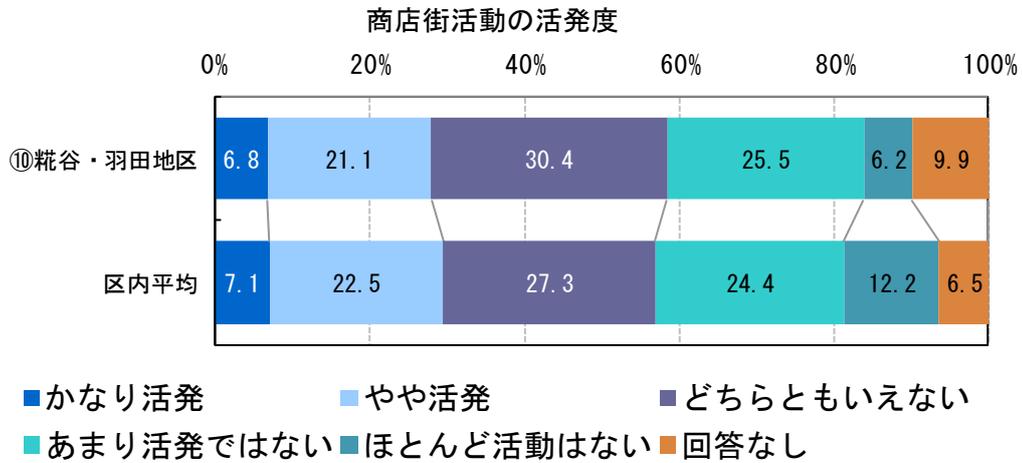
■ 脅威を与える店舗の有無（個店調査アンケート 問5の地域別集計）

- ・「脅威を与える店舗がある」と回答した割合は区内平均よりも高い。
- ・「脅威を与える店舗等」としては、ユニクロ・しまむらなどのチェーン系衣料品店、コーナンやダイソーを挙げる割合が高い。



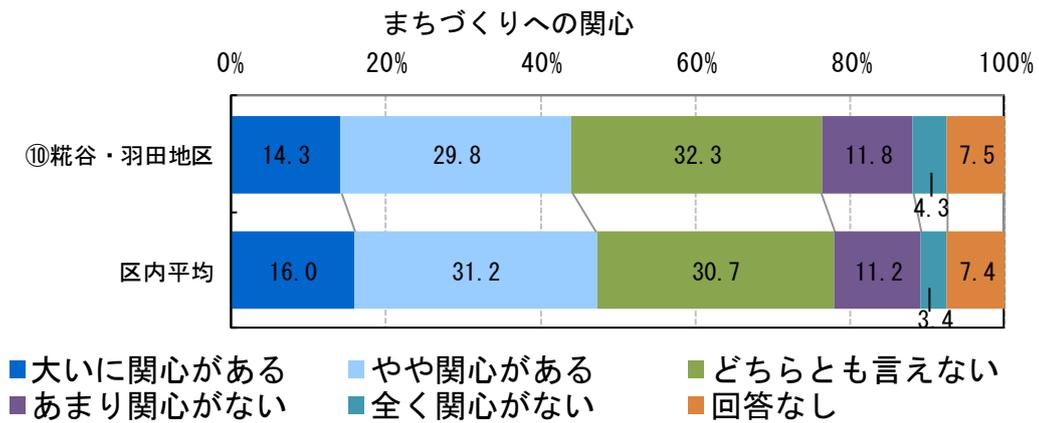
■商店街活動の活発度（個店調査アンケート 問11の地域別集計）

- ・「かなり活発」「活発」と回答した商店街の割合は、区内平均よりも若干低い。
- ・一方で「あまり活発ではない」と回答した商店街の割合も区内平均より若干高めとなっている。



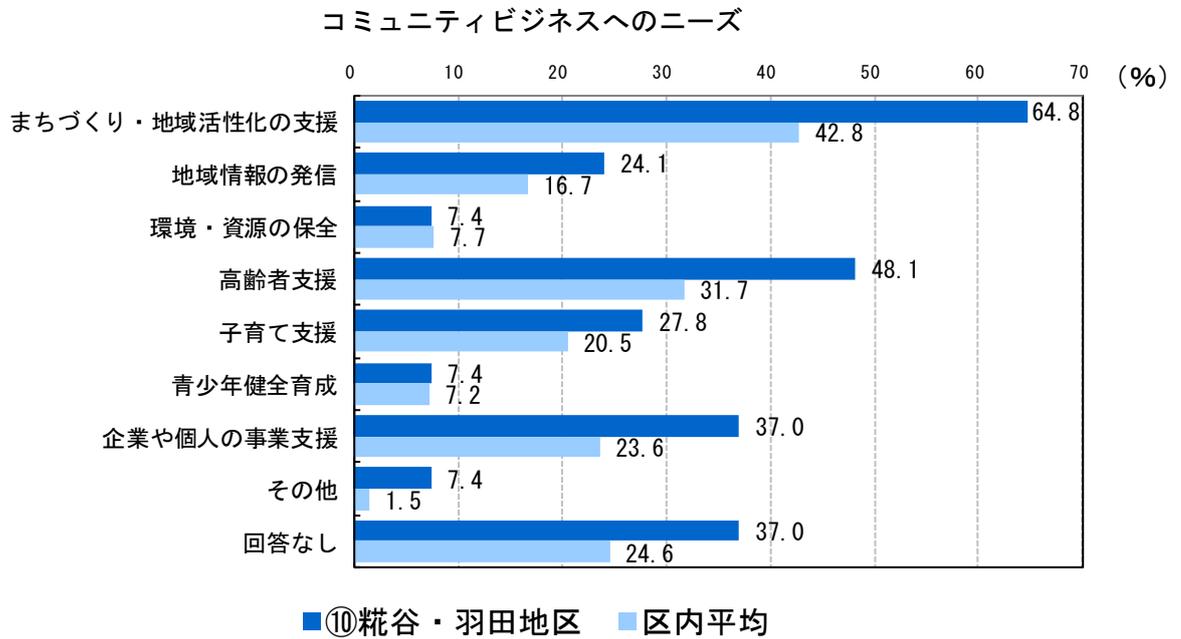
■まちづくりへの関心（個店調査アンケート 問16の地域別集計）

- ・「どちらとも言えない」「あまり関心がない」「全く関心がない」の割合が区内平均よりも高い。



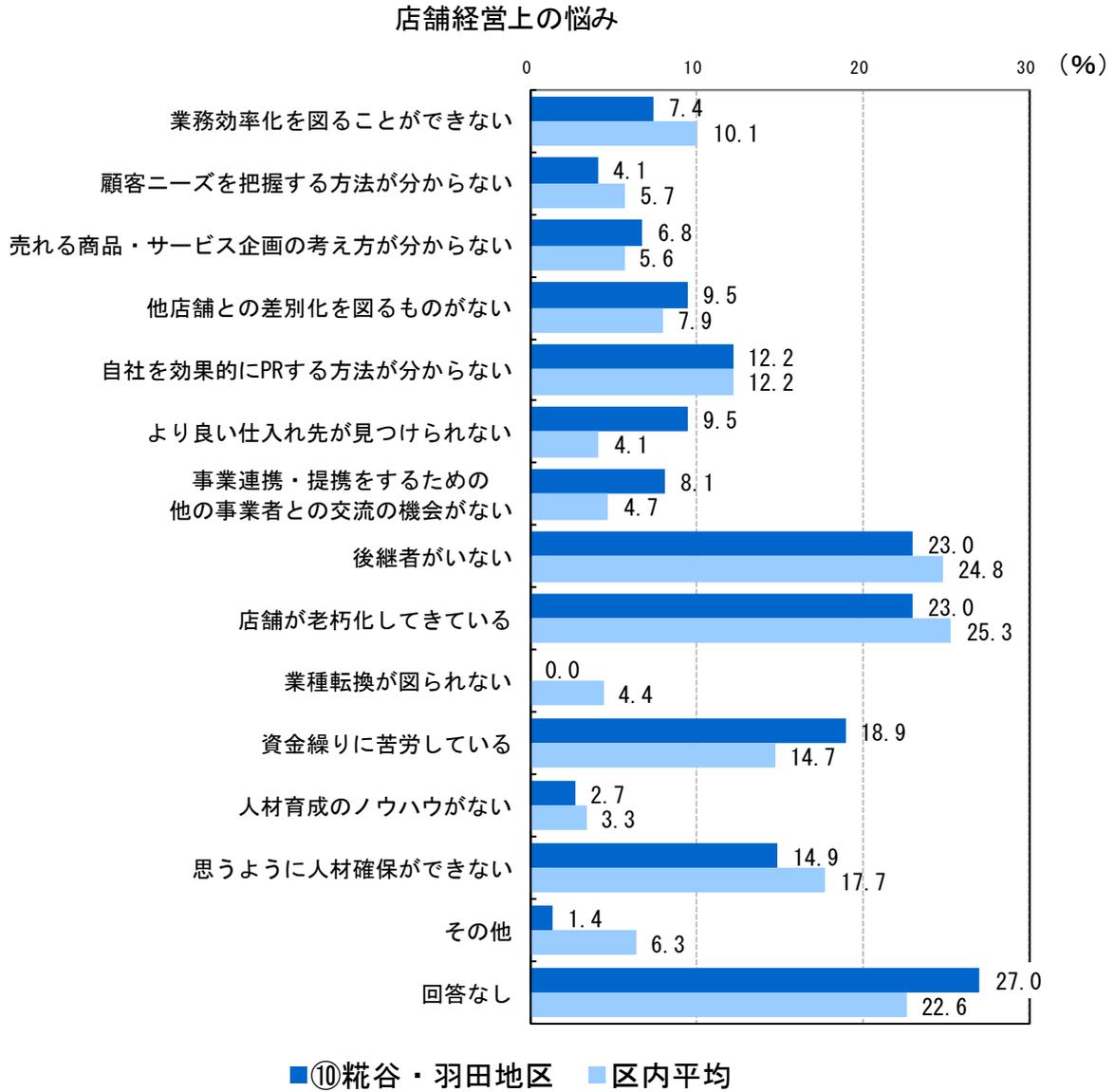
■コミュニティビジネスへのニーズ（個店調査アンケート 問7の地域別集計）

- ・区内平均と比べ、「まちづくり・地域活性化の支援」「地域情報の発信」ニーズが相対的に低く、「高齢者支援」のニーズが、相対的に高い。



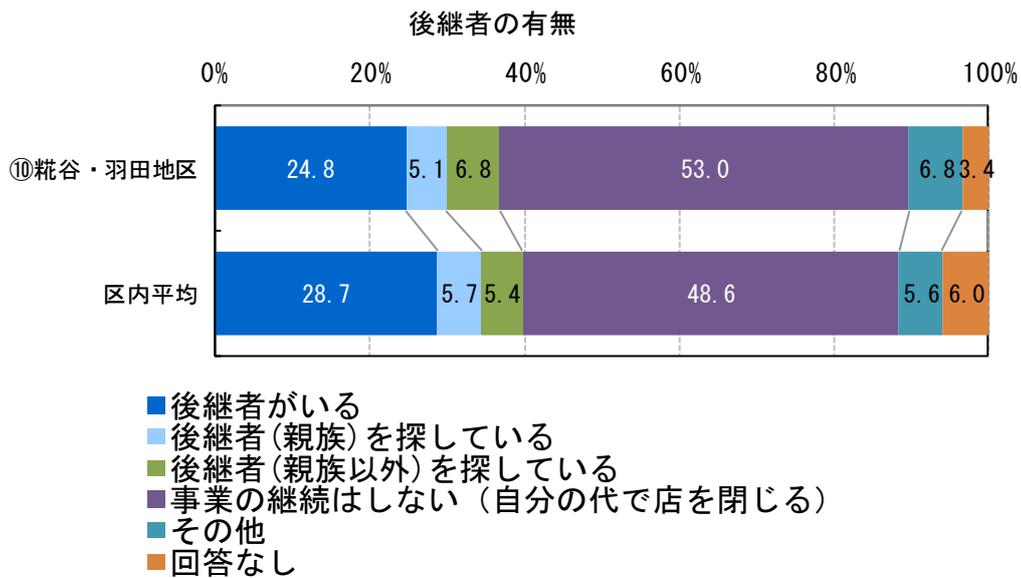
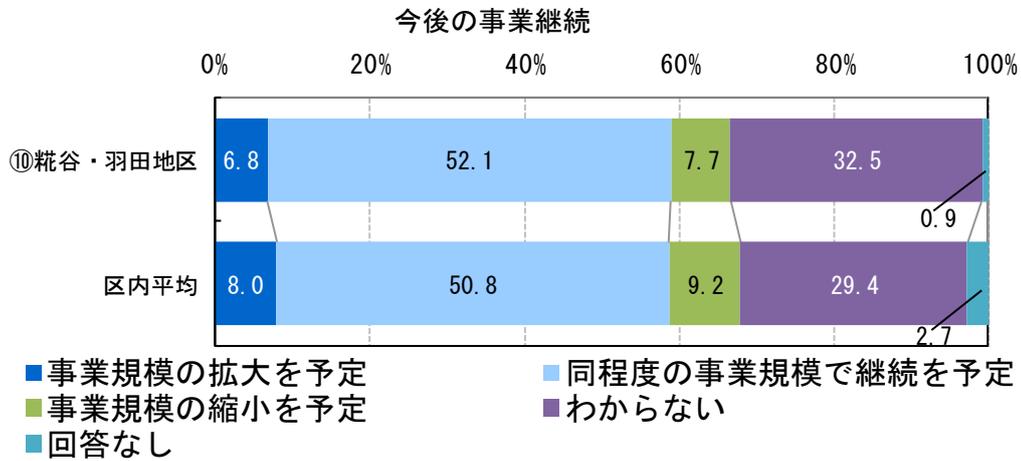
■店舗経営上の悩み（個店調査アンケート 問8の地域別集計）

- ・区内平均と比べ、「資金繰りに苦労している」「事業連携・提携をするための他の事業者との交流の機会がない」という悩みの割合が相対的に高い。

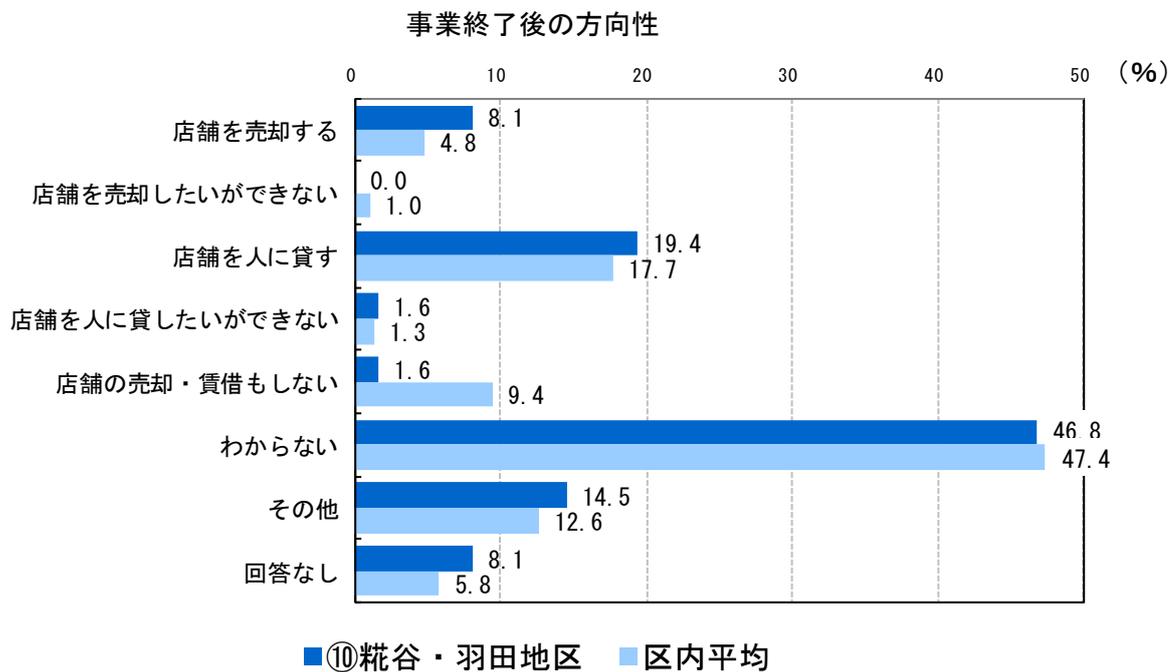


■後継者の有無と今後の事業継続（個店調査アンケート 問15の地域別集計）

- ・区内平均に比べて「事業規模の拡大を予定」と回答した割合が低く、「事業規模の縮小を予定」と回答した割合が高い。
- ・また後継者がいる店舗は3割未満と区内平均に比べて低く、6割は自分の代で店舗を閉める意向である。



- ・自分の代で店舗を閉める店のうち、「店舗を人に貸す」の回答率は12%と区内平均より低い。「店舗の売却・賃借もしない」の回答率は1%と区内平均よりも低い。



■地域の特徴・強み（個店調査アンケート 問18の地域別集計）

・地域の特徴・強みとして「文化・歴史（祭り、神輿、神楽、踊り、太鼓等）」「名所・旧跡（神社仏閣、街道、発祥の地、由緒あるもの等）」「地域のイベント（季節毎の祭り、朝市・夜市・物産市、フリーマーケット）」を挙げる割合が高い。ただし、いずれも区内平均程度にとどまっている。

